

巻頭言

巨摩共立病院 内科 楠 真

第28回山梨肺癌研究会は10題の一般演題にて、活発な討論が行われました。化学療法、外科治療、放射線等の臨床治療に関する演題の他、遺伝子解析、クリティカルパスといった多岐にわたる内容があり非常に興味深く聞かせていただきました。個人的には日頃の不勉強を思い知らされた点もあり、今後の励みにいたしたいと思えます。また県内の肺癌医療の現在までの実績を総括するという意味でも大変有意義な会であったと思えます。

特別講演として埼玉医科大学臨床腫瘍科の佐々木康綱先生に『がん薬物療法の新しい潮流』と題してご講演いただきました。佐々木先生には前任の国立がんセンター時代から、学会の折にその鋭い舌鋒に触れ、驚嘆させられたことが何度もありました。今回の講演も先生の癌医療に対する大いなる情熱がひしひしと伝わってくる非常に熱い講演であり、単に抗癌剤にとどまらず、分子生物学的なアプローチの最先端に関してもお話いただき、大変勉強になりました。

今後もこの研究会が肺癌医療の発展に寄与するよう希望してやみません。最後に今回の会の開催にあたりご援助いただいた事務局の吉井先生はじめ皆様方に厚くお礼申し上げて、巻頭言とさせていただきます。